

留学体験レポート

先輩たちの体験談集

受験生のみなさんはそれぞれに大学に入ってからのことしてみたいという願望や、また何ができるのかという疑問を抱いているかだと思います。本学科では留学という一つの選択肢が用意されています。留学といっても行き先によって事情が異なります。そこで、留学について少しでも具体的なイメージをもってもらえるように、みなさんの先輩となる人たちの留学体験談を紹介します。

協定校等の具体的な留学先



積極性から生まれる信頼関係

私はドイツのアクスブルク大学に、半年間留学をしました。大学では留学生向けにドイツ語の授業が設けられていて、自分にあったレベルでドイツ語を習得することが可能です。また、現地の学生とお互いに母語を教えあう「タンデム制度」を利用すると、交友の幅が広がるだけでなく、コミュニケーション能力を格段に向上させることにもなります。海外留学には、このように語学を習得することや、その国独特の文化や習慣に触れることに魅力があり、何よりも今までは全く異なる環境に身を置くことで、ありのままの自分を見つめなおす良い機会となります。私は休日や授業の空き時間などに、タンデム制度を利用してドイツ語を学んでいましたが、最初は受け身の姿勢で、タンデムパートナーと会うと「今日は何をするの」と尋ねていました。しかし、「あなたは何かしたいの」と問いつ返されたときに、相手が自分のことを気にかけてくれるまで待っているようでは、何も始まりません。自分がしたいことや知りたいことを、相手に積極的に伝える姿勢が非常に重要であることに気づき、態度を改めました。このことがあってから、私は以前よりも相手とよりよい友好関係を築けるようになりました。

北岸 沙梨さん ● 3回生 ● 交換留学

「ボンジュール!」で踏み出そう

リールはベルギーとの国境付近に位置しており、パリからは高速鉄道TGVを使えば約1時間で移動することができます。交通の便が良いため、フランス以外に5カ国を堪能することができました。留学先のリール政治学院には日本語学科がないため、近く他大学で日本語授業に参加し、合気道道場にも通って、日本人のコミュニティからは抜け出し、自分のペースで現地の人々と接するように努めています。道場には様々な職業や年齢層の人たちが来ていて、リールにあるお店を紹介してもらったこともありましたし、近辺でできるボランティアの情報などを教えてもらうこともありました。経験は与えられるものではありません。情報がそろっていないことなど当たり前話ですので、自分から一歩踏み出して話かける努力をし、相手の話にしっかり耳を傾けることにより思いもよらない出会いや発見を得られるものです。そして出会いは何気ない挨拶から始まります。まずフランスで生活してみても驚くのは、挨拶をすることです。お店を出るときは多少無愛想に見えるフランス人の店員にも笑顔で挨拶をしてみましよう。意外にも気持ちよく「Bonne journée(よい一日を)」と返してくれるので!

本城 志帆さん ● 3回生 ● 交換留学

毎日が発見の韓国留学

韓国についてどのようなイメージを持っていますか?私は留学する前には飛行機であれば2時間程度で行けるほど近くにある国ということもあり日本とよく似ているのではないかと感じていました。しかし韓国へ行きその考えは間違いだと思わずきました。

私の通っていた光云大学(韓国ソウル市)では語学学習のほかに週一回韓国の文化を学ぶ授業があります。その他にもアルバイトを経験するなどして積極的に韓国の様々な文化に触れたり、韓国の人たちと交流する中で日本とは違う考えや習慣を発見したり、「隣の国でもこんなに違うのか!」と驚き刺激を受ける毎日でした。例えば、韓国には速さを求める文化があります。タクシーやバスが日本とは違ってとても速く、食堂でも料理を注文すると即座に料理が出てきます。この留学で、私の語学力は飛躍的に伸び、帰国前には韓国語能力試験で最上級である6級に合格しました。これからは留学経験を生かし、韓国の面白さを日本で発信していきたいです。

今村 奈津美さん ● 4回生 ● 交換留学

百聞は一見にしかず

私はモンゴル国立大学に1年間留学しました。この留学によって、様々な面で自分を変えることができたと思います。その1番の原動力となったのは「もどかしさ」にほかなりません。自国の文化を伝えたくとも、自国のことを意外と知らないことが多かったために、伝えることのできない「もどかしさ」、自分の意志を伝えることがうまくできない「もどかしさ」、確かに、この「もどかしさ」を解消してくれるのは語学力でしたが、言語を習得することだけを留学の目的としていたわけではありませんので、私は滞在期間を利用して、その時にしかできないことを体験するように心がけました。例えば、遊牧生活を自分の肌で実感してみたくかったので、遊牧民の人たちのところに何度か訪れましたが、その際に牛の乳搾り、乗馬、羊の放牧、羊の屠殺まで体験することができました。モンゴルについては日本にいるときに講義や本で学んだのですが、本場で自分の目で見て、体験することでより理解が深まり、新たな発見へとつながることができました。そして、このような体験をしながら、モンゴル語も自然とできるようになりました。私にとってモンゴル留学は本当に貴重な経験となりました。

柴田 友登さん ● 4回生 ● 交換留学

GERMANY



FRANCE



SOUTH KOREA



MONGOLIA



USA

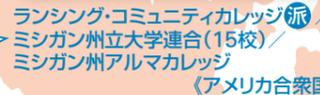


NEW ZEALAND



派遣留学

- ミシガン州立大学連合(15校)
 ・セントラルミシガン大学
 ・イースタンミシガン大学
 ・フェリス州立大学
 ・グランバレー州立大学
 ・レイクスペリオル州立大学
 ・ミシガン州立大学
 ・ミシガン工科大学
 ・ノーザンミシガン大学
 ・オークランド大学
 ・サギノーバレー州立大学
 ・ミシガン大学アナーバー校
 ・ミシガン大学ディアボーン校
 ・ミシガン大学プリント校
 ・ウェイン州立大学
 ・ウェスタンミシガン大学



ランシング・コミュニティカレッジ派 / ミシガン州立大学連合(15校) / ミシガン州アルマカレッジ (アメリカ合衆国)

ビクトリア大学派 (カナダ)

ワシントン州 スカジットバレーカレッジ派 / オリニックカレッジ派 (アメリカ合衆国)

アラバマ州 オーバーン大学 / モンゴメリー校 (アメリカ合衆国)

カリフォルニア州立大学 モントレーベイ校 (アメリカ合衆国)

カリフォルニア・マウント・セント・メリーズ・カレッジ (アメリカ合衆国)

シドニー工科大学 (オーストラリア)

オークランド大学派 (ニュージーランド)

ミズーリ州 コロンビアカレッジ (アメリカ合衆国)

アラバマ州 オーバーン大学 / モンゴメリー校 (アメリカ合衆国)

ターニングポイント

私は10か月間アメリカのコロンビアカレッジに留学していました。大学は小さなコミュニティのようで、友人や先生がすぐ近く感じられる場所です。ダウンタウンは学生も多く、安全に過ごすことができる環境にあります。日々の生活はというと失敗と試行錯誤の繰り返しでした。たくさん悔しい思いをし、楽しいことばかりではありませんでした。この留学生活で私は独力で物事に対処する大切さを痛感しました。周囲の人達はみな親切な人ばかりで、たくさんの友人や先生に助けられました。最終的には留学生という立場を言い訳にせず、自らが動き出さないと何一つ問題を解決することはできません。自力で困難を乗り越える度に確実に自信が持てるようになります。このことを象徴することが冬休みに旅行をした際に起こりました。搭乗予定の飛行機がトラブルのため、欠航となり空港のカウンターで別の便に変更してもらえるように頼みました。しかし、結局、変更したすべての便が欠航となり、ホテルの手配や翌日の航空機の便の予約手続き、その他諸々のことを自分一人で対処しました。一時はどうなるかと思いましたが、その経験を境に何が起ころも落ち着いて物事に対処しようと思えるようになりました。

志賀 佑丞さん ● 3回生 ● 交換留学

アメリカ南部の文化を満喫

アメリカに到着してからは、驚きと発見の繰り返しでした。みんなフレンドリーで、ハグや握手は当たり前で、見ず知らずの人ですら挨拶してくれたり、話しかけてくれたりします。私の留学先オーバーン大学があるアラバマ州モンゴメリーは、アメリカの南部に位置し、その土地の方言に独特のアクセントや表現があり、慣れるまでにはなかなか時間がかかりました。私のイメージとはかなり異なる文化もありました。グリッツやピーカンパイといった日本では見たこともないような食べ物もあり、中でもスウィートティーという、とてつもなく甘いお茶はどこのお店にも家庭にも置いてありました。この州には信仰の厚いキリスト教徒が多く、教会もたくさんあります。留学する前には宗教についてはあまり深く考えたことがありませんでしたが、友人と一緒に教会で、サンクス・ギビングやクリスマス、イースターなどのキリスト教のイベントを経験し、日本とは違う宗教への価値観に触れることができました。アメリカに来て、その文化を学ぶと同時に、日本の文化との違いに気づいたり、現地の学生から日本の文化を逆に教えてもらったり、両国の文化を改めて見つめ直す機会にもなりました。

小嶋 夢乃さん ● 3回生 ● 交換留学

自分を知ってもらい、相手を知ること

私が留学先に選んだのは、ニュージーランドのオークランドという都市で、首都ではありませんが、国の中で最も栄えているところです。季節が日本とは逆になりますので、真夏のクリスマスと年越しを経験しました。現地の人はとても気さくで、カフェで知り合ったご夫婦と親しくなり、お宅に招待されたこともあります。平和で静かな国だからこそ、このような人がたくさんいるのかもかもしれません。

私が通っていたオークランド大学付属のEnglish Language Academyという語学学校では、大学に進学したい人や、この国で働くために英語を身につけたい人など目的が個人によって異なり、それに合わせてコースが細かく分けられています。自己主張が激しいクラスメイトに混じって、「発言しなければ負けてしまう!」という気持ちで、毎日ディスカッションに挑みましたので、失敗や間違いを恐れず自分の意見を述べることに慣れました。外国人同士では察することが困難ですので、わかり合うためには話しをすることや、ときには主張することがとても大切だと思います。また、お互いを理解したいと思うことが英語を学ぶ原動力にもなり、まったく知らなかったことを勉強するきっかけにもなりました。

老泉 唯さん ● 3回生 ● 派遣留学

Stephanie in Wonderland

私の出身地カリフォルニアはとても温暖な気候で、彦根とは全く異なります。秋に開催される大学祭「湖風祭」は、私がこれまで見てきたどのイベントよりも華やかでした。スタッフとして働く日本人学生は皆、成功させようと懸命に取り組み、アメリカでは感じたことのないようなエネルギーに満ち溢れていました。校外学習も驚きの連続でした。沢山のお寺を訪問させていただき、普段なかなか見られない国宝を覗かせていただくことができました。教授のアシスタントとして働くこともでき、教授が学生の教育のためにどれだけ力を注がれているのかを垣間見ることができました。国際化推進室の皆さんは親切に話しやすい方ばかりで、私が大学で心地よく楽しく過ごせるように気遣ってくださいました。県大での一年は学習に浸れるチャンスにあふれ、たくさんの友達に恵まれて、素晴らしい日本文化を再認識でき、決して忘れることができない素晴らしい経験となりました。いつか、必ず日本に戻ってきたいと思っています。

ステファニー・リッツさん ● 交換留学生